

# 子どもの創造性を豊かにする音楽表現活動

## Music and Art activities to Enhance Creativity of a Child

高 奈 奈

### 要 旨

本稿では、子どもの豊かな創造性を引き出し豊かにする音楽表現活動について述べている。また、本学の幼稚園教諭養成課程必修科目である「保育内容の研究・表現技術A」において実施している、お話の効果音を加える絵本ミュージカルの概要と実践、活動の意義についてまとめた。

キーワード：音楽表現 音楽教育 豊かな創造性 リトミック

### はじめに

幼稚園教育要領（平成20年3月文部科学省告示）の領域「表現」に次のように示されている。

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

#### 1. ねらい

- (1)いろいろなものの美しさに対する豊かな感性をもつ。
- (2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

ここに示される豊かな創造性とはどういうことか。「創造性」について考える際、まず「想像力」についても理解しておく必要がある。「想像力」とは、①想像をする心的能力。②⑦カントでは、感性と悟性の性質を分有し、両者を媒介して認識を成立させる能力。④ニーチェ、サルトルらでは、芸術経験の創造・享受両面における形象生産の契機。<sup>1)</sup>である。

筆者が考える「創造性」とは、様々な形のない自由な想像が個の内面で膨らみ、それをうまく体の外に表出し、形づくることである。子どもたちの想像力は無限で、発想は柔軟で豊かである。保育者はその豊かな表現を受容し、積極的に引き出し、音楽表現として形づくることができるよう常に環境を整えておく必要がある。そのためには、保育者自身の創造性が豊かでない

ければならない。

しかし、豊かな創造性を育む音楽表現活動を行うためには、様々な課題がある。その課題と対策を述べ、多様な側面から保育における音楽表現活動を考えたい。また、豊かな創造性を育むことを目的としている、本学の幼稚園教諭養成課程必修科目である「保育内容の研究・表現A」での実践をまとめた。

### 1. 豊かな創造性を育むマリア・コンソラトリーチェ幼稚園の音楽表現活動

筆者が保育における音楽表現活動で子どもの豊かな創造性を育むことの重要性について痛感したきっかけがある。2013年に本学の協定校であるマリア・コンソラトリーチェ幼稚園にて研修させて頂いた際、子どもたちの多様な表現を受け止め、豊かな音楽表現活動を行っている場面を目の当たりにした。

マリア・コンソラトリーチェ幼稚園では幼小共通の年間目標が教職員と保護者による話し合いの下で決められ、日常の保育活動もその目標に沿って行われている。また、保育者の能力が非常に秀でているのが特徴である。園長のイザベラ・バッリ氏がプロのミュージカル作家であるのを筆頭にヴァイオリニストや体操を専門にしている先生がおられ、子どもたちの多様な表現を十分に受け止められる人的環境が整っている。それぞれの保育者が得意とする分野が保育に生かされ、子どもたちの内面の想いを引き出し、形づくることを可能にしていた。

その中でも、筆者が特に感銘を受けた保育活動のひとつを紹介する。様々な種類の音楽を聴いてそれを絵具で白い大きな紙に表現する活動である。音楽の流れは、①フルートの音②ヴァイオリンコンチェルト③水の音④海の音（波の音、鳥の鳴き声）⑤「さくらさくら」⑥ロック調の音楽⑦ユニークな雰囲気シャンソン⑧ディズニー映画「白雪姫」より『ビビデバビデブー』⑨ディズニー映画「リトル・マーメイド」より『Under the sea』である。速さの緩急や使用されている楽器も様々で、保育室いっぱい広げられた縦長の真っ白い紙に音のイメージが色彩的に表現され、感性に訴えかける空間となっていた。

次々と変化する音楽の中で、はじめは自分ひとりのスペースのみで白い紙に表現していた子どもたちであったが、次第に複数で色を合わせるようになり、最終的にはみんなで創り上げたひとつの作品という意識が生まれていた。色の表現方法にも個性が見られ、絵具が体に付くことなんて気にせず体いっぱい使う子、絵具の感触を確かめながら指先だけで描く子、筆を使う子など様々であった。

音楽によって受けたイメージを色で表すことによって、創造する意欲が掻き立てられ白い紙に自己を表現することができていた。また、保育者はそのイメージを引き出し、子どもたちが形づくれるよう子どもの想いに寄り添い、支援していた。



## 2. 保育における創造性を育む音楽表現活動の課題と対策

### (1) 音楽表現活動の課題

井口（2014）によって、幼児の音楽指導における問題点のひとつとして、幼児の自由な表現を認めない高度な訓練形態の指導<sup>2)</sup>が挙げられている。その例として一糸乱れぬ幼児の鼓笛隊や長時間に及ぶ合奏や歌唱の反復練習がある。高度な訓練形態の指導に共通している点は、保育者側からの教え込みであるということが言えるだろう。

このような問題が起こる原因のひとつとして、日本の保育現場（特に幼稚園）ではクラス担任が多くの環境構成を一人で整えなければならないことが考えられる。1クラス25名の保育活動を行う中で、音楽・絵画・制作などの環境構成を一人で整えることが求められている。日々の保育に追われながら、保育者自身が想像力を働かせて新たなものを創造していくのは至難の業である。中でも音楽表現に関しては、ピアノや楽器の専門的な技術が必要とされ、技術不足や苦手意識が自由な発想や新たな試みを阻んでいる大きな要因となっている。

### (2) 変奏による音楽表現活動の広がり

リトミックによる音楽表現活動を行う際、子どもの表現に合わせたり、子どもの表現を引き出すためにピアノを演奏する技術が必要とされ、ピアノを自由に演奏できないことにより多様なリズム表現が実現できない場合がある。子どもが行進するのに合わせて保育者は譜例1のような行進曲を弾くが、専門的なピアノの技術がない保育者にとっては難しい。左手伴奏部の和音を連続して弾くだけでも一苦勞である。

譜例 1



リトミックのリズム表現には、行進だけでなく、かけあし、スキップ、ワルツ、ギャロップなどがあり、その全てに合わせてリズム曲を練習することは、保育者にとって大変な負担がか

かる。リズム表現の他にも、雨や風など自然現象の表現、ぞうやうさぎなど動物の動きの表現など多岐に渡り、そのすべての表現に対して1曲ずつ準備し自由に演奏することは、困難である。

しかし、ひとつのテーマをそれぞれのリズムに編曲することで負担が軽減し、自由に子どもの表現活動を支えることができる。「きらきらぼし」のテーマをかけあし（譜例2）、スキップ（譜例3）、ワルツ（譜例4）、ギャロップ（譜例5）に変奏したものを次に示す。

#### 譜例2 〈かけあし〉



マーチでは左手の伴奏形が四分音符の連続であったが、それを八分音符の連続に変奏することにより、かけあしのリズム運動ができる。また、譜例2を1オクターブ上で弾くと、ひよこやリスなど小さな動物が走っている様子を表現することができる。

#### 譜例3 〈スキップ〉



譜例3のように右手のメロディー部を付点八分音符と十六分音符の連続に変奏し、スキップのリズムにする。演奏する際、マーチやかけあしと同じ指づかいで演奏できるため、すぐに習得することができる。

#### 譜例4 〈ワルツ〉



ワルツは四分の三拍子が特徴の旋回舞曲である。一拍目に強拍を置き、一小節をひとつに感じながら演奏する。

### 譜例5 〈ギャロップ〉



ギャロップは、馬が一步ごとに四足ともに地上から離して駆ける、最も速い駆け方であり、その動きを模したリズム運動である。八分の六拍子を大きく二つに感じて二拍子のように拍子を取るのが特徴的である。

## 3. 保育者として豊かな発想を広げる

### (1) 絵本ミュージカルの制作

本学の保育士養成課程における科目「保育内容の研究・表現A」の総まとめとして、絵本ミュージカルを制作している。絵本をただ読むのではなく、ピアノや打楽器による効果音を加え、聴き手がより物語の情景を想像しやすくするのが目的である。また、制作の過程において、打楽器の効果的な演奏法や場面に合った効果音を選択する技術を身につけたい。制作の過程は次の通りである。

- ① 8～10名のグループに分かれて、好きな絵本を1冊選ぶ。
- ② クラス全体で効果音を加えられそうな事象を書き出し、どのような楽器を使うか検討する。事象の例と使用する楽器は以下の通りである。

#### 〈事象〉

- ・ 自然の音…雨の音（ザーザー、ポツポツ、シトシト、ピチピチ）風の音（ヒューン、ザワザワ）
- ・ 擬音語…ギリギリ、ザクザク、パンパン、ポンッ
- ・ 動作…歩く、走る、転がる、飛ぶ、落ちる、驚く、泣く、笑う、騒ぐ
- ・ 出来事…出会う、別れる、朝になる、暗くなる、1年が過ぎる
- ・ 感情…嬉しい、楽しい、悲しい、寂しい、切ない、怖い、驚く

#### 〈使用する楽器〉

ピアノ、大太鼓、小太鼓、木琴、鉄琴、タンバリン、鈴、カスタネット、トライアングル、シンバル、ウッドブロック、ビブラスラップ、カバサ、アゴゴベル、ウインドチャイム

上記の〈事象〉と〈楽器〉を組み合わせて効果音を考える。以下に例を挙げる。

・「歩く」動作

登場人物の歩く速さを想像してウッドブロックやカスタネットを叩くことにより、絵本の中の時間の流れを感じやすくなる。

・「朝になる」

ウインドチャイムを鳴らす。

・「驚く」

ビブラスラップを鳴らす。

・「転がって穴に落ちる」場面

木琴の音をグリッサンドで鳴らした後（転がる）、タンバリンを叩く（落ちる）ことにより、より情景を思い浮かべやすい。

③ナレーション、配役、楽器を演奏する等の役割を決め、ミュージカルの制作に取り組む。

④絵本ミュージカルの発表

## （2）絵本ミュージカル『11ぴきのねことあほうどり』

平成28年度に実施した「保育内容の研究・表現技術A」において発表された絵本ミュージカルの作品を紹介する。

・絵本の作品名：『11ぴきのねことあほうどり』

・作者：馬場のぼる

・あらすじ：トラネコをリーダーとする11ぴきのねこたちは、コロッケの店を開業する。開店当初、店は繁盛したものの、次第にコロッケは売れなくなり、ねこたちは毎晩売れ残りのコロッケを食べて暮らしていた。

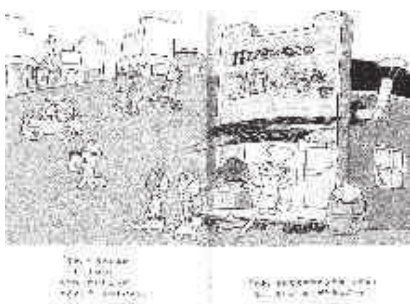
コロッケに飽きていたねこたちの前に、旅の途中だというアホウドリがやってくる。アホウドリには11羽の兄弟がおり、その兄弟たちにもコロッケを食べさせてやりたいと言う。コロッケに飽きていたねこたちには、アホウドリを丸焼きにして食べるという密かな企みがあった。

アホウドリの故郷に着くと、待合室に通されたねこたちの前に1羽ずつアホウドリが現れるが、1羽ごとにアホウドリは大きくなり、11羽目には巨大なアホウドリが出現する。ねこたちは驚き、大慌てで逃げ帰る。



・効果音を加えた場面

〈お話の始まり〉

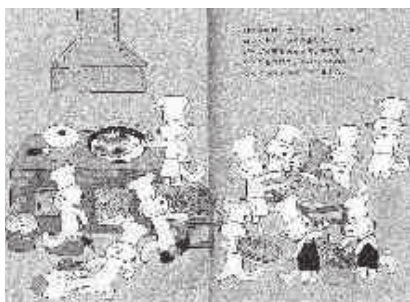


譜例 6



ねこたちがコロッケ屋を開店し、店が繁盛している場面にW.A.モーツァルト作曲『ホルン協奏曲第1番第1楽章』（譜例6）をBGMに加える。モーツァルトらしい二長調特有の明るいメロディーによってお店が好調であることが表現される。

〈ねこたちがコロッケを作る場面〉

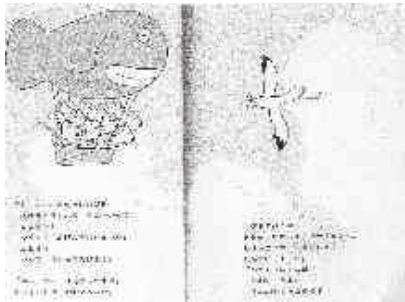


譜例 7



ねこたちがコロッケを作っている場面。L.イエッセル作曲『おもちゃの兵隊の観兵式』（譜例7）をBGMに加える。この曲は、日本で最もよく見られる料理番組である『キューピー3分クッキング』のテーマ音楽として知られているため、軽快なメロディーを耳にすると、多くの人が、てきぱきと手際よく料理している光景をイメージすることができる。

〈気球に乗ってアホウドリの国に向かう場面〉

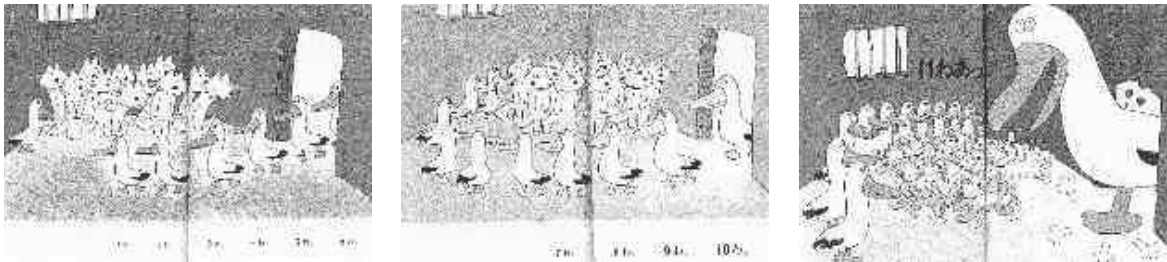


譜例 8



ねこたちが気球に乗ってアホウドリの国に向かう場面で、荒井由美作曲映画「魔女の宅急便」便より『ルージュの伝言』（譜例8）をBGMとして加える。四分音符と八分音符で構成された伴奏部が、期待を膨らませて空を飛んでいるねこたちの様子にぴったりである。

〈アホウドリが次々と登場する場面〉



いよいよ物語のクライマックスである、アホウドリが次々と登場する場面。6羽までが登場する場面では、まだねこたちはこの後にどのような事が起こるか知らない状態であるため、1羽現れる度にウッドブロックを鳴らし、滑稽な様子表現する。7羽目以降が登場する場面には、A.ドヴォルザーク作曲「交響曲第9番ホ短調『新世界』第4楽章」（譜例9）の冒頭部をBGMとして加える。緊迫した半音階の序奏がねこたちの凍りついた表情を表すのに効果的であり、第2主題が現れ

譜例 9





る前の経過部2小節によって巨大なアホウドリが出現する恐怖を掻き立てられる。

### (3) 絵本ミュージカル制作により磨かれる豊かな創造力

「保育内容の研究・表現技術A」において、絵本ミュージカルに取り組む意義は以下の通りである。

- ①短い既存の物語をさらに発展させることで、劇あそびや劇音楽を創り上げる練習ができる。
- ②子どもの歌以外にクラシック音楽、映画音楽など様々な音楽に触れることで、感性が磨かれ発想が豊かになる。
- ③グループで制作することにより、一人では思いつかない工夫ができ、より音楽性の高い作品づくりができる。
- ④ピアノの高い技術がなくても、曲を演奏する以外にグリッサンドや半音進行など、ピアノで表現できることの可能性が広がる。
- ⑤打楽器の効果的な取り入れ方について考えが深まる。
- ⑥行進やかけ足などリズムに繋がる表現活動をお話の登場人物により実現できる。

保育者として、子どもの豊かな発想を引き出し音楽表現として形づくるためには、保育者自身が彩り豊かな空想の世界を膨らますことができ、それを音として表現する力が必要である。そのために、絵本ミュージカルなどお話と音楽とを融合させる活動は豊かな創造性を磨くのに最適であると考えられる。

### おわりに

今後も、保育における子どもの創造性を豊かにする音楽表現活動の研究に努めていきたい。主な課題は、本学付属幼稚園において月齢別に実地研究を行い、より現場に即した音楽表現活動の研究に取り組むことである。

### 引用文献

- 1) 広辞苑第六版(2008) 岩波書店
- 2) 井口太(2014) 編著 新・幼児の音楽教育 幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導 朝日出版社

### 参考文献

- 文部科学省(2008) 幼稚園指導要領  
谷田貝公昭 監修・三森桂子 編著(2010) 新・保育内容シリーズ5 音楽表現 一芸社  
鈴木みゆき・藪中征代 編著(2004) 保育内容「表現」乳幼児の音楽 樹村房

石本由理・岡本仁 共編（1992）はしる!とぶ!リトミックピアノ曲集 自由現代社

**【注】**

- 1) イタリアのミラノにある幼小一貫教育校
- 2) E.J.ダクロズによって考案された律動法。体の動きを音楽に結びつけてリズム感覚を育てる。